



お客様事例 **バイオボン・ジャポン株式会社様**

ペットボトル回収機「ボトルスカッシュ®」で お客さまと共に楽しくサステナブルなアクションを

パリ発のオーガニック・スーパーマーケット「バイオボン」。2016年には日本初上陸1号店として、麻布十番店をオープン。以来、店舗数を拡大しながら「日常使いのオーガニックを提案しています」。

そんなバイオボン様には、2020年の麻布十番店を皮切りにTERAOKAのペットボトル回収機「ボトルスカッシュ（DRV-100）」を導入いただいています。このペットボトル回収機について、そしてサステナブルの取り組みを、バイオボン・ジャポン株式会社 マーケティング部 部長 枝川和佳子様にお伺いしました。

再生された容器を オーガニック野菜のトレーに使用

「地球環境にやさしいお店、社会をめざす方針に基づき、長期戦略サステナブルの1つとしてスタートしたというペットボトル回収。店頭のペットボトル回収機で回収した資源は、容器メーカーである株式会社エフピコのリサイクル工場でシート化され、EcoPET®容器としてリサイクル。再生された容器は、バイオボンの一部のデリ容器および有機野菜（2022年6月より「北海道洞爺湖町産 佐伯農園さまミニトマト200g」）のトレーに活用されています。再生容器を使用することにより、従来使用していた資材に比べCO2排出量が約30%削減されるといいます。

「有機農産物の場合は、私たち小売りの力だけでは変えることが難しく、生産者さまにこの取り組みに対し賛同していただ

て初めて容器を変更することができます。そのため、エフピコさまにまず「農産容器もサステナブルにできませんか？」と相談を差し上げてアイデアをいただいたあと、この容器・規格に合う農産物は何だろうか？と農産チームとミーティングを重ねました。弊社のバイヤーたちが「一緒にやりませんか？」と回っていったら、生産者さまの賛同も募っていくような形ですね。今後、別の作物にも展開できたらバイヤーとも話をしています」



自由が丘店の入口そばに置かれた「ボトルスカッシュ（DRV-100）」。「寄付先」を選び、ペットボトルを投入する



国産間伐材の什器を多く使用した店内には「オーガニック」はもちろん、「サステナブル」も重視しセレクトされた商品が並び、値札を入れるプライスレールは冷ケースを除いて従来の再生ペット材から国産間伐材に、棚の仕切りや背板も紙製に変更している



など違うもので作りかえるか、店舗開発チームがお取り組み先さまと検討し、小売りとして今できることをチャレンジして切り替えています」

この自由が丘店、RE100対応の

CO2フリー電力の導入など、「非常に優れた『環境・社会への配慮』がなされた建物」として、「DBJ Green Building 認証」の★3を取得済みの商業ビル newno自由が丘に入居しています。



バイオセボンのペットボトル回収リサイクルループと、このループで再生されたトレーを活用し販売されているミニトマト(上から)

ドネーション機能をいち早く実現 回収本数・回収量も着実に増加

また、回収によるポイントを消費者に付与するのではなく、任意の団体に寄付できる「ドネーション参加機能」を国内で初めて実現したのもバイオセボン様でした。お客さまのエコ意識を寄付で表し、社会貢献につなげることができるとの機能では、この団体に寄付するまで自分の意志が込められるため、より前向きな寄付のアクションにつながるご期待をお持ちです。

「お客さまからは、楽しくエコができるのは嬉しい、ポイントではなく寄付の形で貢献できるのは素晴らしいなどと好評です。毎月の回収本数・回収量は前月比平均

およそ108%と、増加傾向にあり、全国各地のお客さまから近くのお店でも導入して欲しいというご要望も多数いただいています。3月には寄付先として「ウクライナ緊急募金」を追加しました。その際にもTERAOKAさんには迅速に対応いただき、回収本数・回収量も前月比150%近くに増加。おかげさまで大変ご好評をいただきました」

この「ドネーション参加機能」を実現するにあたり、バイオセボン様は「寄付せずリサイクルのみ」ボタンも作りたくと希望されました。「このボタンを押す方にも2通りいらっしやると思っています。ひとつは本当に寄付したくない方、もうひとつは他の3つのボタン以外のところに寄付をしたい方がいらっ

しゃいます。その方はきっと別のところで寄付をされているはずで、それはそれで良いんです。私たちがお手伝いできることは、その4つのボタン(選択肢)を作ることなので、それ以降はお客さまご自身の判断におまかせしようと考えました」

このように枝川様率いるマーケティング部では多様性を認めることを重視し、「お客さまがどのような場面であつてもたのしくご満足いただけるような買い物体験が得られるコミュニケーション、サービス」を大切にされています。

「御社のペットボトルスカッシュはまさにお客さまと一緒に、未来のためにたのしくアクションができる取り組みです。この体験をきっかけに、お客さまの選択肢の幅を拡げて差し上げ、最終的にはオーガニック業界やサステナビリティの取り組みが全体的に押しあがつていければと願っています」

サステナブルストアとして さらに進化した新店

2022年6月に開店した『バイオセボン自由が丘店』では、新たな取り組みを導入し、サステナブルストアとしてさらなる進化を見せています。

「当社におけるサステナブルな取り組みとしては、創業当初よりマイバッグの推進や、バルクフーズ(量り売り)など様々なことを実施してきておりますが、2020年からより深度をアップしています。たとえば更なるステップとして、資材をなくす、素材を置きかえるという2軸でプラスチックの使用

エプロンの羊のヒントはボトルスカッシュ



取材では、接客を大切にするバイオセボン様らしいこんなエピソードも伺いました。「店舗スタッフがつけているエプロンの腰あたりに羊のキャラクターが刺繍されています。その理由は、ベビーカーに乗っているお子さまの視線の高さがちょうどこのあたりだから。お子さまがこのマークを見つけることで会話のきっかけになり、お客さまにお買い物を楽しんでいただきたいという想いが込められています」

「実は、このヒントをいただいたのはボトルスカッシュでした。TERAOKAさんが「この製品にはユニバーサルデザインを取り入れていて、お子さまでもペットボトルを入れられる高さになっています」とおっしゃって。それをお聞きして、そういう考え方はすごく大事な、弊社でも取り入れたいと社内で話して、出てきたアイデアのひとつがこのエプロンでした」



このビルでは、消費エネルギー、水使用量、CO2排出量、廃棄物量を月次で計量・把握し、その集計・分析を行っていくとしています。

「サステナブルな取り組みは可視化することで、より社内外の協力やご支持を得られる部分が大きいです。そのため、私たちも自分たちの取り組みを可視化しなければならぬと常に考えています」

**オーガニックと
サステナビリティは似ている**

TERAOKAとの取り組みについては、こう語ってくださいました。

「ペットボトル回収機を導入する際に、サステナブルをやりたいです。ドネーション

ンをやりたいです。こんなことで困っています」と私たちの課題をお話ししたら、(TERAOKAは)「たくさんのことを教えてくださいました。TERAOKAさん自身のサステナブルへの考えや研究に本当に勉強させていただきました。あのときいろいろなことを教えてくださったなら、こういうスキームにはならなかった。現在は3社で組んでいます。実は3社で組むことって難しい。たとえば2人で仲良くしているところに、新しい人ももう一人仲間に入れるのってすごく難しいですね。それを一緒にやってくれました。複数の企業同士で手を取り合ってリサイクルループを一緒に作ったことに達成感を感じています。さらに今、このループが、農産分野で再生容器の活用へと広がろうとしています。この共感の輪を

回収機に表示される「ドネーション参加機能」画面(サンプル)と、ウクライナ緊急募金のお知らせ(Twitter)

量を減らしています。昨年ぐらいに、既存店でできる切り替えは大体できたという感触を持ちました。そこで次はいよいよ店舗そのものを変えていこうというのが今年のプロジェクトです。店舗の資材も、プラスチックが結構多いです。例えばプライスレールや、陳列のための仕切り板や背板と呼ばれるものはほとんどプラスチックでした。これを再生プラスチックに置きかえるか、それとも紙製



ピオセボン・ジャポン株式会社
マーケティング部 部長
枝川 和佳子様

大切にしていきたいです。TERAOKAさんと出会うことができてラッキーでした」
「もちろんこの回収機の良さは当然ありますが、サステナビリティーはもっと大きな目で見る必要があると思います。会社を超えてみんなと手をつなぐことで、このスキームを様々な企業さまが使う可能性が出てきていることが素晴らしいです。どの企業さまも、一緒にやろうという気持ちにならないと、おそらく事業の中で実現できません。私たちとTERAOKAさんが手をつないだように、手をつながないと広がらない仕組みだと思います。実は、オーガニックもそうなのです。オーガニックも、会社を超えてみんなでやっていく必要がある事業です。そして、支援が必要なお客さまには支援をしていく。そう考えるとオーガニックとサステナビリティーが似ています。みんな仲良くやっていくという姿勢が、うまくつながっていくといいなと思っています」
前述した通り、自由が丘店オープンにあたっては新たな取り組みを導入し、サステナブルストアとしてさらに進化を見せたピオセボン様。今後も地域のお客さまと共に、資源循環型社会の構築とCO2削減に積極的に取り組んでいきます。

Customer data



ピオセボン・ジャポン株式会社

〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町10-11 日本橋府川ビル3階

<https://www.bio-c-bon.jp/>

Product data



ボトルスカッシュ®(DRV-100)



2リットルまでの飲料用ペットボトルを減容する自動回収機です。独自の圧縮機構により、省スペースと質の高い資源回収を同時に実現。ドネーション仕様の搭載により、利用者のエコ意識を寄付という形で地域・社会貢献につなげることが可能に。事前に設定した複数の寄付先の中から、ペットボトル投入時にディスプレイ上で利用者自らが寄付先を選択できることで、積極的なリサイクル参加を促します。また、ポイントサーバーに連携すれば、ポイントを貯めながらリサイクル活動に参加頂くことができ、集客力UPと顧客の固定化に貢献します。約180本(※)収納可能な通常モデルと、容量が大きく袋交換の回数を抑えられるDRV-100Tをラインナップ。DRV-100Tでは、通常モデルの約1.5倍の約280本(※)を収納することができます。回収BOXは満杯になった際にスムーズに袋交換が可能な形にデザインしています。
※500mlペットボトル換算

YouTube



コンセプトムービーは
こちらから

お問合せ